

「来週の日曜日は空けておいてね。」夏休みのある日、突然母に言われました。私が「どうして？」と聞き返すと「おじいちゃんの誕生日会があるから。」と言われました。それを聞いた時、私は「またか、面倒くさい」と正直に言おうと思いました。その誕生日会と母方の祖父の誕生日会で毎年恒例の行事です。参加するのは、母の姉の家族と弟の家族、そして私達です。つまり、祖父の子供三人がそれぞれの家族を連れて参加します。母は兄弟三人とても仲が良いのでいとこ同士も仲が良く一緒に旅行に行ったりする程です。一方で父は二人兄弟ですが、父の兄弟とは年に一～二度程度しか会わず、父方のいとこもそれほど仲良くありません。なぜ、こんなに母の兄弟は仲が良いのか考えてみました。

それは私の母の母、つまり私の祖母が早くに亡くなったからではないでしょうか。祖母は、50歳の時に亡くなりました。その時、私の母は二十二歳、祖父は五十六歳だったそうです。私の祖母は四十八歳の時にがんになり二年間の闘病の末に亡くなったそうです。母に聞いてみると、今まで明るく家族をまとめていた祖母の死の影響は大きく、家族の心がバラバラになり、心に穴があいたように感じたそうです。そのような気持ちは私にもなんとなくわかるような気がします。

もし今、私の母がいなくなってしまうたら今の家族の雰囲気や生活が全て変わってしまうと思います。私に置き換えて考えてみると分かります。

私には、兄が二人います。今現在、上の兄は大学生ですがほとんど家にいません。いなくても大丈夫なのは、母がいて家の全ての事をやってくれているから今の生活が整い成り立っています。しかし、もし母がいなくなってしまうたら残された家族で協力して生活をするしかありません。そうすると、早く家に帰らなければならないし、みんなで手分けして家事をすることになるでしょう。きっと家事を全てやることはできても、母のいた時と同じような生活には戻れないと思います。家族が一人いなくなった寂しさを一人一人が感じるから、それぞれがお互いの事を気にして集まろうとするのだと思います。それが、現在毎年集まる仲の良さにつながっているのではないのでしょうか。

話は戻りますが、今年は祖父の八十二歳の誕生日で祖母が亡くなって二十六年たちました。祖母に会ったことのある孫は一人もいません。私達、孫は祖母の事は知りませんが、毎年、祖父を囲んで楽しく誕生日会を開くことが出来ています。

めんどくさいと思っていた誕生日会もいとこたちとそれぞれの学校の話しなど、たくさんのお話をし、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。

今回の感話を通して、もしとても辛い事や悲しい事があり、その時に絶望してもその出来事をきっかけに長い時間がかかっても、それがあつたおかげで今があると感じ考えられる時がくるのだなと思いました。そして、大切なものを失ってから気付くのではなく、今ある生活や人を当たり前だと思わずに、一瞬一瞬を大切にして生きていきたいと思いました。そしてもし、万が一に大切なものを失ったとしても、その先には未来があることを信じてこれからも忘れずに生活したいです。